

リレーコラム 47

キャリアの積み方—私の場合

国立成育医療研究センター

周産期・母性診療センター 新生児科

私が長らく新生児医療に

携われている理由

和田 友香

新生児の魅力に取りつかれて 20 年以上が経ちました。その間に多くのありがたい出会いがあり、そのおかげで今も楽しく新生児医療に携わることができています。

実は私は大学の小児科に入局した時には血液腫瘍学をするつもりで、周囲もそう思っていたと思うのですが、研修中の NICU ローテート時に全力で生きようとしている新生児に惹かれ、新生児学を専門にしたいくなってしまいました。医局内でざわつきがあったようですが、血液腫瘍班の先生方は「やりたいことをしたらいい」とおっしゃってください、その後も気まずくなることなく応援してくださっています。

卒後 3 年目に結婚したのですが、私は大阪で、夫は東京でやりたいことがありましたのでしばらくそれぞれのやりたいことを優先しました。しかし卒後 4 年目には教授からそろそろ東京へ行った方がいいと言われ、確かにそうだと思えて、東京にある今の勤務先である国立成育医療研究センターで引き続き新生児医療を学ばせていただくことにしました。教授のアドバイスに感謝しています。その後 NICU 研修が 1 年経った時には研究がしたいと思うようになり、上司に相談をしました。すると、あっという間に私を研究所に紹介してください、研究生活が始まりました。実験の計画、実行、研究費の取得方法、論文の書き方、統計などさまざまなことを学びました。今まで知らなかった世界でとても楽しかったです。ところが研究所へ行って間もなく妊娠・切迫早産となり、十分には働けなくなってしまいました。そんな状況であっても、部長をはじめすべての方々のご理解・応援ください、出産後に復帰してもすぐに仕事を再開することができました。お母さんのように育児相談に乗ってくださる方もいて助けていただきました。数年後には再度臨床へ戻ったのですが、研究所で学んだ経験は今でも臨床研究に生かすことができています。本当に多くの方々にお世話になりました。

現在は子育てにかかる時間が減ってきていますので、学会活動や研究活動に時間を使えるようになってきました。貴重な経験をさせていただいたり、新たな人との出会いがあり楽しいです。

子どものお迎え、病気、遠足、授業参観などのためにたびたび遅刻、早退、欠勤をしましたが、ずっとお世話になっている伊藤裕司先生、塚本桂子先生から一度も嫌な顔をされたことはありません。そして保育園のお迎えの時間に間に合わなかった時には、周囲が察して私の仕事を引き継いでくださいました。

時には、体力的にも精神的にもしんどくなることがありましたが、こうして応援してくれる人がいて、その人たちに失礼にならないように頑張りたいと思え、やりたいことをやっていたからこそ今まで新生児医療に携わっていられるのだと思います。

今度は私が若い先生方がやりたいことをやれるような環境作りをしたいと思います。NICU は忙しいから無理だと思わず、やりたいと思う先生はやりましょう！ やりたくないことに時間を使うのは大変ですが、やりたいことに時間を使うのは楽しいですよ！

<著者略歴> 和田 友香（わだ ゆか） Yuka Wada MD, PhD, IBCLC 新生児科医

2000年 大阪医科大学（現：大阪医科大学）医学部卒業
2000～2002年 大阪医科大学附属病院（現：大阪医科大学病院）小児科で研修
2002～2003年 大阪府済生会吹田病院小児科
2003～2004年 国立成育医療研究センター周産期診療部 新生児科レジデント
2004～2007年 国立成育医療研究センター研究所 小児思春期発育研究部（現在の分子内分泌研究部）
医学博士号取得
2007～2008年 日本食品衛生協会リサーチレジデント
2008年～ 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター新生児科・妊娠と薬情報センター兼任
2011年12月～2012年2月 トロント小児大学臨床薬理学・中毒学教室
2022年11月～ 国立成育医療研究センター遺伝診療センター 兼任
（専門医資格等）
小児科専門医、周産期専門医（新生児）、臨床遺伝専門医、国際認定ラクテーション・コンサルタント
奈良県出身、趣味は旅行とスキー。娘2人。小児心臓外科医の夫、犬2匹とにぎやかに暮らしています。

～ ダイバーシティ・キャリア形成委員会より ～

「やりたいことをやる」と「やりたいようにやる」はどう違うのでしょうか？

小児科医として「やりたいこと」は何ですか？と自問しても、あなたは明確に答える事ができますか？ 診療科としてのチーム医療を行う上司と部下の間で、権利や自由についての考え方や認識の違いにより、様々なコンフリクトが発生します。往々にして「やりたいようにやる」ことが、自己中心的な行動としてとらわれてしまいます。

医療者として「やりたいこと」、すなわち「パーソナル・ミッション」：自分の使命や目標を明確にし、それに向かって行くための内省や計画を持つことは重要です。そのためには、先ず「自分をよく知ること」が大切です。自分を良く知る・理解する力は、相手を理解することにつながり、より良いチーム医療をもたらせます。自分軸と他者軸が重なり合うことで働き方や生き方がより豊かとなり、いきいきと働くことが周囲の人々にも良い影響を与えます。「やりたいこと」を明確にし、「やりたいように」できるように目指したいですね。

もう一度、あなたの「パーソナル・ミッション」について考えてみませんか？